

第3章 胆江地域子育てサポートネットワーク わらしゃんど

～胆江地域で楽しい子育て～

はじめに

子ザルの「サルタロー」と子ギツネの「ピカリン」の着ぐるみの登場に、子どもたちは大喜び。なかには、キャラクターたちに「抱っこして」とせがむ子どももいる。…これは、岩手県の中南部に位置する胆江（たんこう）地域で行われた、あるイベントでの一風景である。この「サルタロー」や「ピカリン」が登場する「ニコニコ着ぐるみ一座」を展開する団体、それが「胆江地域子育てサポートネットワーク わらしゃんど」（以下、「わらしゃんど」と表記）



である¹⁾。「わらしゃんど」は、依頼があれば、胆江地域のどこへでも「着ぐるみ一座」の公演に出かけていく。さまざまなイベントの“盛り上げ役”として、岩手で引っ張りだこの団体である。

それでは、こうした「わらしゃんど」の楽しい活動は、どのように展開されているのであろうか。ここではまず、団体の設立の経緯からみていくことにする。なお、以下では、2006年9月19日に行った、「わらしゃんど」代表の新田明美さん、顧問の家子洋子さん、事務局長の千葉美由さんに対するインタビュー調査の結果を用いていく。また、参考資料として、情報誌「わらしゃんど」のバックナンバーとホームページならびに、インタビュー調査の前に行ったアンケートの結果を利用する。

1. 「わらしゃんど」の設立とその変化

「わらしゃんど」が活動範囲とするのは、東西約50km、南北約40km、総面積は東京都の2分の1ほどもある広大な胆江地域である。地域の中央を北上川が流れており、北上川西岸の「胆沢（いさわ）」地方、東岸の「江差（えさし）」地方の頭文字を音読して、「胆江（たんこう）」地域と呼ばれている。奥州市（旧水沢市・江刺市・胆沢郡前沢町・同郡胆沢町・同郡衣川村の5市町村が2006年に合併して誕生）と金ヶ崎町を併せた地域であり、人口は約15万人である。主要な産業は農業であるが、地域内には自動車産業に携わる工業地区もある。また、子育てに関わる地域的な問題としては、岩手という土地柄、冬場は雪に閉ざされてしまい、外に出る機会が減るため、子育て中の親子が家の中に取り残され、孤立しやすくなることが挙げられる。

「わらしゃんど」は、こうした胆江地域を活動範囲とする団体として、2000年2月に設立された。設立当時、胆江地域では、6つの市町村（当時）それぞれにひとつずつの割合で、子育てサークルが活動を始めていた。「わらしゃんど」の現代表の新田さんと、現顧問の家子さんも、当時、江刺市で活動していた子育てサークル「わくわくママサロン」のメンバーであった。サークルの運営にあたっては、他のサークルと顔を合わせる場面もないため、運営に関する相談相手がいなかったことが悩みの種であった。

そして、このサークル運営者たちの「サークル同士の横のつながりがあれば・・・」との声を受け、1999年に、岩手県の地方振興局が立ち上がった。サークル同士のつながりを作るべく、地方振興局が、6市町村で活動しているサークルの代表や、アドバイザー役となる保育所の所長や主任児童委員等にも声をかけて、顔合わせの機会を設けたのである。ここで集められたメンバーが中心となり、胆江地域での子育て支援のネットワークを作る準備委員会が組織された。その後、1年間の準備期間を経て、「わらしゃんど」は正式に発足したのである。

胆江地域という広域な範囲を活動基盤とするサークルの発足は、当時としては珍しい取り組みであったため、新聞を通じて広く報じられた。そして、その知らせを聞いた胆江地域に住む保育士や直接子育てに関わる機会のない独身者などが、子育て支援を手伝いたいと入会してきたのである。その結果、会員は100名以上にまで増加し、「わらしゃんど」は、胆江地域全体を網羅する大規模な団体として活動を始めたのであった。

その後、「わらしゃんど」は、徐々に団体の規模を縮小し、現在の20～30名の規模に落ち着くこととなる。こうした変化の背景には、胆江地域における子育て支援に関わる事業・活動の広がりがあった。実際、2000年以降、胆江地域には子育て支援センターが設立されるなど、行政による子育て支援事業の拡大が図られるようになり、「わらしゃんど」以外の子育て支援の場は徐々に増えていった²⁾。また、こうした動きは、ボランティアとして支援に関わりたいと考えた人たちにとっても、活動の場の選択肢を増やすものであったのである。

活動が6年目を迎えた現在、会員は25名となり、現顧問の家子さんが「まとまりやすい人数かな」と話しているように、団体として動きやすい規模となっている。メンバーは子育て中の母親が多いが、その他にも、大学生・高校生の子どもをもつ子育て経験者や主任児童委員等も会員となっている。子育て当事者の世代と子育て経験をもつ世代の両方が会員となった、幅広い年齢層をもつ団体であるといえる³⁾。

このように、胆江地域における子育て支援活動を担う先駆けとして生まれた「わらしゃんど」は、その後、子育て支援の活動の広がりに合わせて、その姿を変えてきたのである。

2. 「わらしゃんど」の活動

それでは、こうして姿を変えてきた「わらしゃんど」は、現在どのような活動をしているのであろうか。「わらしゃんど」の活動内容は、大きく三つに分けられる。一つめは、先に述べた「ニコニコ着ぐるみ一座」等の出前公演であり、二つめは子育てに関わる情報の提供、そして三つめは、イベントの開催である。ここからは、「出前公演の実施」「情報誌の発行」「子育てに関わる情報の提供」の実際をみていくことにする。



写真：エプロンシアターの様子

(1) イベントへの出前公演

「わらしゃんど」の現在の活動を語る上で欠くことのできないのが、「ニコニコ着ぐるみ一座」である。この「着ぐるみ一座」とは、行政やサークル等のイベントに、「わらしゃんど」のスタッフが「ピカリン」と「サルタロー」の着ぐるみを着て訪問し、進行役のスタッフの言葉に合わせて、手を振ったり踊ったりして、イベントの参加者を楽しませる活動である。さらに、この出前公演では、要請があれば、

着ぐるみだけでなく、エプロンシアターやペープサート等も行っている。公演先としては、小学校や社会福祉協議会の行事、他の子育てサークルのイベントなどがあり、どこからの依頼でも、可能な限り引き受けている。なかには、謝礼や交通費が出ないイベントもある。しかし、「せっかく子ども達が楽しみにしてるので、ぜひ行ってあげたいという気持ちが先にたっちゃうんですよ」と家子さんが話しているように、謝礼の有無や会場までの距離に関わらず、公演に出かけている。子ども達が着ぐるみが来るのを「楽しみにしている」こと、そして、そんな子ども達の気持ちに答えようとする思いによって、公演活動は支えられているのである。

(2) 子育てに関わる情報の提供

「わらしゃんど」の主な活動のふたつめとして挙げられるのが、情報誌やホームページを通じた「情報の提供」である。

「わらしゃんど」が設立された2000年当時、胆江地域の子育てに関する情報を集約するような場所や機関はなく、情報誌も発行されていなかった。そのため、胆江地域で子育てをする母親達は、どこでどのような支援がされているのかはもちろんのこと、どこに行けば情報がもらえるのかということすら、わからない状況にあった。こうした状況を受け、「わらしゃんど」は、発足してすぐに、子育て情報を母親達に届けるための情報誌の作成・発行に取り組んだ。広大な胆江地域全体にわたるネットワークであることを生かし、6市町村(当時)に散らばる情報を集め、提供する役割を担ったのである。

この情報提供は、立ち上げ当初から現在に至るまで、「わらしゃんど」の重要な活動と位置づけられている。というのも、「わらしゃんど」では、情報誌を通じた情報提供を、家にこもりがちな母親にも、家の外の人々と「つながっているんだよっていう気持ち」をもってもらうためのひとつの手段として位置づけているためである。外に出てこれられない母親に対しても何とか支援したいという思いがこの活動を支えているのである。

現在、この情報誌『わらしゃんど』(右上図)は、年に2回、300部ほど発行しており、会員に郵送する他、保育園や保健センター等、胆江地域内の10ヶ所以上で、無料で配布している。最近では、新しい情報をすぐに届けられるよう、ホームページを立ち上げ、試験的に運営を始めている。情報誌に加えて、ホームページを開設することによって、情報を提供する手段の拡大を図っているといえる。

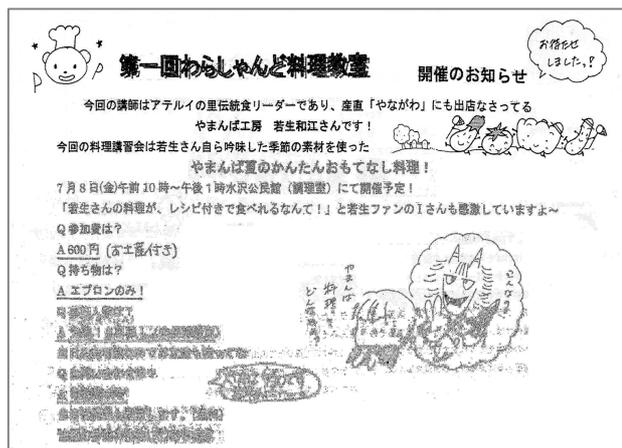
(3) イベントの開催

「わらしゃんど」の活動の三つめとして挙げられるのが、イベントの開催である。具体的には、毎月1回程度、会員外にも広く募集をかけ、「託児つき料理勉強会」や「クリスマス会」等を開いている。

このイベントの内容は、子育て中の母親のニーズを受けて企画・立案されている。現在、胆江地域では、子育て中の親子が出かけられる場やイベントは増えつつあるものの、母親自身が



経験したり学んだりする場は未だ多くはない。「何かをつかんで帰っていただける場」というような企画を挙げていくと喜ばれるので」と千葉さんが話しているように、現在の母親たちは、自分の糧となるものを得られるイベントを求めているようである。そして、そうしたニーズに対応する形で「わらしゃんど」は、託児付きの料理教室（右図）や、ピーズアクセサリー作りの体験等といった、母親自身の経験や学習を広げたり、リフレッシュにつながったりするようなイベントを企画しているのである。



3. 活動を支える体制

それでは、これらの活動は、どのような体制で支えられているのであろうか。「わらしゃんど」の活動を支える特徴はふたつある。ひとつは、少人数のスタッフによる運営と地域のアドバイザーの存在、もうひとつは、「楽しみながらの運営」である。

まず、一つめのスタッフについては、現会員25名中、実質的な運営スタッフとなっているのは5名である。このスタッフのみで、情報誌・イベント・出前公演の企画・運営のほとんどを担っている。そのため、打ち合わせの時間は、毎月2回とされているスタッフによる運営会議だけでは足りず、一週間のうちに何度も会うということも珍しくない。

そして、こうした数少ない運営スタッフの力になっているのが、設立当時からアドバイザーとして関わっている、地域の主任児童委員や保育士の存在である。特に、主任児童委員は、「わらしゃんど」の会計監査役を担うと共に、スタッフが判断に迷う場合などの相談役になっている。また、主任児童委員の名前を出すことで、地域の施設の使用など、交渉がスムーズに進むこともあるようである。地域のアドバイザーは、直接的な運営の担い手ではないものの、陰から活動を支える役割を担っているといえる。

また、「わらしゃんど」の運営のもう一つの特徴が「楽しみながらの運営」である。調査前のアンケートでも、運営上大切にしていることとして、「自分たちで楽しめることを！」と答えている。スタッフの少なさゆえに生じる仕事の大変さも、運営そのものを楽しむことで乗り切っているようである。実際、インタビューのなかで、家子さんは、着ぐるみの公演での経験を思い出しながら、「(あるイベントでは：筆者注)いろいろな年代の人が来てたんですが、着ぐるみが出て行くだけでみんな顔がほころんで。着ぐるみに入る人も楽しいです。すごい疲れますが、楽しくて」と語っていた。「着ぐるみ一座」の公演は、体力の消耗が激しく、決して楽な活動ではない。しかし、そうした大変な公演活動にも、楽しみながら積極的に取り組んでいるのである。「わらしゃんど」の運営にとって、「楽しむこと」は大きな原動力となっているといえよう。

おわりに

このように、現在「わらしゃんど」は、胆江地域の子育て支援の担い手の一つとして、楽しい活動を展開している。現在のところ、順調に活動を展開しているが、運営上の問題もみられ

るようになっている。そのひとつが会員の獲得である。現在、会員は25名いるが、活動資金の多くを「一家族につき1000円」の年会費から得ていることを考えると、会員数を増やすのは今後の課題である。会員の募集については、情報誌に掲載したり、イベントの際に告知したりと、度々呼びかけてはいるものの、なかなか集まらないのが実情である。

そして、もうひとつ「わらしゃんど」の課題となっているのが、スタッフの獲得である。先に述べたように、現在のところ、全会員25名中、実質的な運営を担うスタッフは5名ほどである。「託児付勉強会」の託児等はボランティアで協力してくれる人もいるが、情報誌作りや着ぐるみ一座等、スタッフの手弁当で行っている部分も多く、スタッフが参加できない場合の代替りの人手探しには、苦労しているようである。スタッフ募集も会員内外に呼びかけてはいるものの、ボランティアとして参加するには負担も多いため、引き受ける人がいない状況である。今後は、会員ならびにスタッフを増やすような工夫が必要といえる。

これまでみてきたように、「わらしゃんど」は、胆江地域の子育ての状況に合わせて活動を変化させつつ、子育て支援の場を盛り上げるような楽しい活動を展開している。これからも「わらしゃんど」が、胆江地域の笑顔を生み出す団体として、活躍しつづけることを願いたい。

(丹治恭子)

<注>

- 1) 団体の名前である「わらしゃんど」は、「子ども」を意味する岩手の方言である「わらし」と、「ランド」を組み合わせたものである。
- 2) 「わらしゃんど」では、設立から5年間は、最盛期には200組300名もの親子が参加したこともある「わらしゃんど親子祭り」を開催していた。現在は、この祭りは開催していないが、その理由としては、行政からの予算がなくなったこと、ならびに胆江地域に親子で出かけていけるイベントが増えたことによって、「わらしゃんど」が大規模なイベントを開催する必要性が感じられなくなったことが挙げられる。
- 3) 「わらしゃんど」の会員の特徴として、もうひとつ挙げられるのが、転入者の多さである。現在の「わらしゃんど」の会員25名中、半数以上が転入者であり、代表の新田さん、顧問の家子さん、事務局長の千葉さんも、結婚などを機に胆江地域に越してきた転入者である。現在、子育て中の千葉さんのお話では、胆江地域の公園には、人があまり出ておらず、子育て中の人同士が出会いにくい状況があるという。比較的出入りの激しい胆江地域において、「わらしゃんど」は、転入者の母親たちにとって大切な場となっているようである。

<参考資料>

- ・「胆江地域子育てサポートネットワーク わらしゃんど」ホームページ：
<http://geocities.yahoo.co.jp/gl/warasyando2000>